

平成30年12月18日

発言者	発言要旨
関委員	経済産業大臣が指定する伝統的工芸品について、本県の指定の状況はどうか。
商業・県産品振興課長	本県においては、経済産業大臣が指定する伝統的工芸品に5品目が指定されている。また、それとは別に市町村からの推薦をもとに山形県ふるさと工芸品を選定しており、伝統的工芸品と併せて68品目である。
関委員	県内の伝統的工芸品には、置賜紬のような大きな規模の組合から、羽越しな布のような小規模のところもあるが、県として、各産地の生産額や規模等を把握しているか。
商業・県産品振興課長	中小企業庁において、平成17年度までは、伝統工芸品を中心に「産地概況調査」を実施していたが、18年度以降廃止された。県としては、現状の把握は必要であるとの認識の下、組合に対し、個別に聞き取り等を行っている。生産額等も聞いているが公表を前提としていないことや一部協力を得られない事業者もあることから、具体的な発言は差し控えるが、その状況については、15年前と比べ、生産額や従事者が減少し、後継者も不足するなど厳しい状況にあると認識している。
関委員	伝統工芸品に対する県の位置付けと支援策はどうか。
商業・県産品振興課長	<p>各産地に根差した伝統工芸・地場産業は、重要な産業であり、その技術や技法を残していくことが大切である。</p> <p>国指定の伝統的工芸品及び県のふるさと工芸品の振興については、補助金により、産地組合や地域のグループ等が行う新商品開発・販路開拓等への支援を行っている。また、バイヤーや大学等の学識経験者で構成されるプラットフォームを活用し、現地調査を行い、指導・助言等を行っている。</p> <p>さらに、規模の小さい事業者については、新商品トライアル事業として、意欲ある事業者に対し、専門のプロデューサーが新商品開発を支援している。</p>
関委員	これまで、県の支援策を活用した具体的な事例を紹介してほしい。
商業・県産品振興課長	先日、ビッグウィングで行われた伝統工芸品の展示会等への出展支援を行った。また、新商品トライアル事業については、寒河江の草履は、国内生産の大部分を占めているが、新たな需要開拓のため、初心者向けに履物の左右を分かるように鼻緒の位置を変えたり、踵が出ないようにするなど、若い方にも履いてもらえるよう開発を進めている。
関委員	<p>JRの高級特急列車「四季島」の乗客が来た時、しな布の帽子や鞆がたくさん売れたと聞いている。</p> <p>値段が高くても、魅力を感じる人からは買ってもらえることが分かったが、どうやってそういう人に知ってもらえるかが課題である。これからの販路拡大に向けた支援策等はどうか。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
商業・県産品振興課長	<p>伝統工芸品の事業者は、規模・体制や商品の販売力等まちまちである。規模の大きいところは、産地組合や地域グループに支援する補助金を活用してもらい、規模の小さいところは、大学や専門家等と連携して、開発から販売までそれぞれに応じたコンサルティングを行うなど、きめ細かな支援を行っていききたい。</p>
関委員	<p>県のふるさと工芸品はいつから実施し、件数の推移はどうか。</p>
商業・県産品振興課長	<p>平成 21 年度に開始し、市町村の推薦を受け選定した。件数は、変わっていないが、更に市町村からの推薦等があれば県のふるさと工芸品として追加できるか検討していききたい。</p>
関委員	<p>山形県文化推進基本計画（仮称）骨子案において、伝統工芸はどのような位置付けになるのか。</p>
県民文化スポーツ課長	<p>伝統工芸は、先人から受け継がれてきた大切な文化の一つであるが、なくなる可能性があるという意見もある。県内には文化的に全国や世界に誇れるものがたくさんあるので、文化推進基本計画（仮称）の中でも県産品や観光資源として位置付けて取り入れたいと考えている。</p>
関委員	<p>観光分野でも重要な位置を占めていると思うが、どのような位置付けになるのか。</p>
美食・美酒ツーリズム推進室長	<p>おもてなし山形県観光計画の重点テーマとして「産業ツーリズム」を設定している。伝統工芸品を含む本県の誇るものづくりについて、新たな視点で発掘し、観光資源として磨き上げ、観光誘客に活用していく。</p>
関委員	<p>伝統工芸は、規模が小さく、実態が把握しづらい分野ではあるが、その振興は、本県の文化や観光振興の面でも重要であるため、これらの分野と連携して取り組んでほしい。</p>
商業・県産品振興課長	<p>いろいろなところと連携して取組みを進めたい。販路拡大と合わせて、もう一つの課題である後継者不足対策については、大学生などの若者に興味を持ってもらう地場産業アカデミーの開催や、多くの県民にその良さを知ってもらうため、展示即売会等のイベントへの支援も行っている。</p> <p>海外製品の流入やライフスタイルの変化等により、生産額が減少していく中で、産地の維持も難しいところがあるが、関係機関と連携して取り組んでいきたい。</p>
関委員	<p>中小企業スーパーTOTALサポ補助金の現状と今後の方向性はどうか。</p>
中小企業振興課長	<p>平成 26 年度に中小企業TOTALサポート補助金としてスタートし、研究開発から設備投資、販路開拓まで一貫した支援を実施してきた。29 年度には、小規模事業者への支援を追加し、スーパーTOTALサポ補助金としてリニューアルした。国のものづくり補助金、小規模事業者補助金に採択されなかった事業者を支援するものであり、特に、小規模事業者への支援については、経営計画を策定し、目標を定め、商工会・商工会議所の経営指導員が伴走支援することに大きな意味が</p>

発 言 者	発 言 要 旨
関委員	<p>あると考えている。30年度の採択件数は157件となっている。</p> <p>小規模事業者支援の視点から、取組状況及びその評価はどうか。</p>
中小企業振興課長	<p>国の小規模事業者持続化補助金の採択状況は、平成29年度が387件、30年度が352件となっており、いずれも東北地方で1位であった。商工会・商工会議所の経営指導員が事業者に伴走しながら、フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションで支援した結果が、こうした成果に結びついたと認識している。</p>
関委員	<p>平成31年度の予算要求概要では、中小企業スーパーTOTALサポ補助金の規模が縮小されるようだが、来年度の取組みはどう考えているのか。</p>
中小企業振興課長	<p>平成31年度の予算要求概要では、支援ベースで3.3億円を想定しながら、今後検討していく。なお、30年度は支援ベースで5.5億円であった。</p> <p>30年度の国のものづくり補助金は、391件の申請に対して253件の採択、小規模事業者持続化補助金は447件の申請に対して352件の採択であった。スーパーTOTALサポ補助金と合わせると、申請に対し、設備投資関連は75.3%、小規模事業者は95.5%が支援を受けることができたことになる。</p> <p>また、国の補助金の審査で加点の対象となる「先端設備等導入計画」の基本計画を、本県では全市町村で整備済みである。</p> <p>31年度においても国の支援を獲得することが重要と考えており、国の補助金を主としてスーパーTOTALサポ補助金でバックアップしていく。</p>
吉村委員	<p>今定例会ではスポーツ施設について話が出た。県はスポーツ振興基金を設けているが、現在の基金の状況はどうなっているか。</p>
県民文化スポーツ課長	<p>山形県スポーツ振興基金については、所管が教育委員会になっており、現在約3億円(289,764,664円)と聞いている。</p>
吉村委員	<p>スポーツ振興基金を使った施設整備やスポーツ施設の新設について、教育委員会だけで考えるのは難しいのではないかと。政策的なこともあるだろうし、まちづくりにも関係してくるため、私は知事部局の観光文化スポーツ部でそうしたものを運用していく方が、大きなこともやりやすいのではないかと考えている。</p> <p>今後、スポーツに関する行政について、教育庁とどういった住み分けをしているのか。県内スポーツの振興については、観光文化スポーツ部がもっと主導権を握って、計画を立てていくべきでないかと思うがどうか。</p>
観光文化スポーツ部長	<p>それぞれの事業の目的、果たすべき役割ということ踏まえながら、まずは教育委員会所管分についての現状等の話を聞いてみたいと思う。その上でどういう所管や組織が良いのか、どういった住み分けや連携が良いのか、といったことについて教育委員会の話を聞いたうえで、関係のところは様々あるので、そういったところでの検討になるかと思う。</p>
吉村委員	<p>ぜひ来年度以降の体制について、話し合いをしてほしい。学校教育の中でのスポーツというものは、マンパワー不足が顕著になっている。全体的な計画を考えて</p>

発 言 者	発 言 要 旨
吉村委員	<p>推進していく上で、学校教育のところは教育庁で良いが、全体的な施策の検討は知事部局で対応するべきと考えており、来年度以降の体制を検討してほしい。</p> <p>新「世界の蔵王」プロジェクトについて、これまでの検討状況及び今後のスケジュールはどうか。</p>
観光立県推進課長	<p>推進体制として、プロジェクト会議とワークショップを設置している。プロジェクト会議は、幅広い意見を聴き、ブランドコンセプトやKPIなどを決めていくものであり、ワークショップは地元の若手が参加し、実働部隊的な役割を担うものである。プロジェクト会議は、昨日（12月17日）、第1回の会議を行っており、ワークショップはこれまでに2回実施し、現状の把握や課題について検討を行った。</p>
吉村委員	<p>ワークショップではどのような検討が行われているか。</p>
観光立県推進課長	<p>ワークショップについては、50歳以下の若手、約20人で構成され、蔵王の現状や強み、弱みの分析などを行っている。地域づくりの側面もあり、今後も継続していく予定である。</p>
吉村委員	<p>いろいろな意見をフィードバックして行っていくとすれば、時間が掛かると思うが、どのくらいの取組期間を考えているのか。</p>
観光立県推進課長	<p>ソフト・ハード含めて考えると、中長期的な取組みが必要であり、最低でも10年は必要と考えている。</p> <p>短期事業と中長期事業と分けて検討しなければならないが、来年度については、できることから進めていく。</p>
吉村委員	<p>腰を据えて取り組んでほしいと考えているが、推進に向けての計画は策定しないのか。</p>
観光立県推進課長	<p>今後、コンセプトを固める中で、一定の指標を設定した上で進めていく。</p>
吉村委員	<p>県内のスキー場について、雪の状況はどうか。</p>
観光立県推進課長	<p>12月17日現在、県内24スキー場のうち、7箇所がオープンしている。そのうち、2箇所が全面滑走可能、5箇所が一部滑走可能となっている。</p>
吉村委員	<p>一部滑走可能となっている5箇所のスキー場に、雪を運ぶことはあるのか。</p>
観光立県推進課長	<p>情報がなため、不明である。</p>
吉村委員	<p>スキー場は雪が降らないと、ダメージが大きいため、状況を注視してほしい。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
吉村委員	今年度の中小企業に対する年末の相談窓口の体制等はどうなっているか。また、その相談件数はどうだったか。
中小企業振興課長	<p>年末の資金需要期を迎える中小企業・小規模事業者の資金繰り等の相談に対応するため、毎年「中小企業年末特別金融相談窓口」を設置している。</p> <p>30年度は12月3日から28日まで設置し、12月17日現在、相談はない。29年度は12月1日から28日まで設置し、4件の相談があった。</p>
吉村委員	以前は、県の相談窓口を年末まで設置していたことがあったと記憶しているがどうか。
中小企業振興課長	リーマンショックがあった平成20年度は12月10日から30日まで相談窓口を設置し、50件の相談があった。近年の相談件数は1桁台で推移している。
吉村委員	目立つ取組みではないが、非常に重要な取組みだと思うので、引き続き対応してほしい。
小野委員	<p>ふるさと工芸品に寒河江の出世鯉のぼりが選定されているが、あまり注文もないようである。</p> <p>県や市町村の職員が出張等でお土産を持っていく際、山形県の工芸品を活用するよう働きかけてはどうか。</p>
商工労働部長	県では伝統工芸品も含めて、県産品を知って、買って、使ってその良さを発信する県産品愛用運動を展開している。職員はもちろん、今後もさまざまな場面で県産品を活用する意識をもってもらおうよう、より一層の意識醸成に努めていきたい。
小野委員	「第4回やまがた雪フェスティバル」の開催期日と県外からの宿泊者の見込みはどうか。
観光立県推進課長	<p>期日は、2月1日（金）から3日（日）までの3日間である。昨年と異なる内容として、イルミネーションの点灯期間を11日間から80日間に延長している。</p> <p>加えて、県外の誘客の取組みとして、福島、宮城、新潟に対し、テレビCMを流す予定である。特に、福島は東北中央自動車道の開通ということもあり、来客も見込めるため、強力的にPRしていきたい。</p>
小野委員	開催期間3日としているが、初日夕方にオープニングセレモニーが行われ、実質的な期間は、その翌日からの2日間と捉えられている。開催期間をもう1日伸ばすことはできないのか。
観光立県推進課長	人員や予算もあるので、実行委員会で検討する。
小野委員	市民参加型のオブジェの展示は非常に良い取組みであるが、設置場所が目立たない場所になっているため、会場のレイアウトの検討や設置個所のPRが必要で

発 言 者	発 言 要 旨
観光立県推進課長	<p>はないか。</p> <p>今年も市民参加型のオブジェを行う予定である。設置場所等については、実行委員会で検討するとともに、PRを早めに行いたい。</p>
小野委員	<p>今年度の予算額は昨年度の半額となっており、縮小していくのではないかと懸念されるがどうか。</p>
観光立県推進課長	<p>予算総額は、県、寒河江市、西村山郡4町及び協賛金等で5,300万円を見込んでいる。予算が減ったことで、寂しい感じにならないよう知恵を絞っている。</p>
小野委員	<p>協賛金等はずっと集まる可能性もある。</p>
観光立県推進課長	<p>寒河江市と連携し、協賛金の確保に努める。</p>
小野委員	<p>昨年、次回に向けての検討がなされたが、その中で出された駐車場不足やシャトルバスの利用率向上への対応はどうか。</p>
観光立県推進課長	<p>シャトルバスの発着場所を会場に近づける方向で検討している。駐車場については、昨年、会場周辺に1,400台、チェリーランド、荘銀・日新製薬スタジアムに1,240台確保している。今年も同数確保できるよう進めている。</p>
小野委員	<p>会場全体のゾーニングやお店のレイアウトの検討状況はどうか。</p>
観光立県推進課長	<p>会場が広すぎて、イベントに参加しづらいという意見があり、ラーメン屋などの飲食店も含め、会場の配置の検討を行っているところである。</p>
小野委員	<p>近隣市町村への周遊促進に向けた取組みはどうか。</p>
観光立県推進課長	<p>1市3町の道の駅において、「山形どまんなか道の駅フェス」を開催し、雪フェスティバル会場と各道の駅の周遊を促進する。河北町を除くが、道の駅と連携し、スタンプラリーを実施する。</p>
小野委員	<p>広報が不足している。根付くためには、長く取り組んでいくことが必要であり、腰を据えて対応してほしい。</p> <p>そのためにも、市町村ごとに経済波及効果を示していくことが必要と考えるがどうか。</p>
観光立県推進課長	<p>算定には産業連関表が必要であり、担当課に確認したところ、都道府県単位が最小で、市町村単位のものはないとのことである。</p> <p>産業連関表は、観光分野に限らず、全ての産業に係るものであり、市町村単位の産業連関表がない以上、市町村ごとの経済波及効果を提供することはできない。</p>
小野委員	<p>取組みの評価検証や地域の方への説明のためには必要なものであり、どうすれ</p>

発 言 者	発 言 要 旨
観光立県推進課長	<p>ば可能となるのか考えていく必要があるのではないかと。</p> <p>産業連関表がないと算定は不可能である。</p>
小野委員	<p>平成31年2月に予定している東北観光プロモーション会議の内容はどうなっているか、また、雪フェスティバルとの関係はどうか。</p>
インバウンド・国際交流推進課長	<p>今年2月に開催した国連世界観光会議では、雪国文化が観光の目的になることが認識され、スノーカルチャーツーリズムの可能性が発信された。これを一過性のものにしないため、冬の観光の取組みとして、構築されたネットワークを活かして、東北各県や東北観光推進機構と連携し、雪と文化をテーマとした東北観光プロモーション会議を開催することとしている。会議は2月1日から2日までで、1月31日から視察ツアー、1日がメインの会議になる。海外の旅行会社やメディア等150人程度が参加する予定である。東北各県のプレゼンテーションや商談会、視察ツアー等を予定している。</p> <p>雪フェスティバルについては、プレゼンの中でPRするほか、視察ツアーでも体験してもらおう。</p>
小野委員	<p>台湾からの国際定期チャーター便が約144便、2月までに約1万人が来県する予定と聞いているが、やまがた雪フェスティバルや米沢、新庄などの県内の雪まつりをどのようにPRしていくのか。</p>
インバウンド・国際交流推進課長	<p>県内の冬のイベントや観光地を幅広くツアーに組み込んでもらえるよう商談会や視察ツアーの際に、働きかけを行っている。雪フェスティバルは、開催期日が限定されているため難しい面もあるが、旅行会社に働きかけを行っている。また、成田、羽田、仙台空港からの旅行商品には、雪フェスティバルが行程に入っているものもある。</p>
小野委員	<p>台湾からチャーター便で来県する人には、事前にPRしないと効果がないのではないかと。</p>
インバウンド・国際交流推進課長	<p>チャーター便を利用するツアーについては、事前にPRすることが可能であり、取り組んでいく。</p>
小野委員	<p>アウトバウンドの考え方について、観光文化スポーツ部長に聞きたい。</p>
観光文化スポーツ部長	<p>定期チャーター便の旅行商品は、台湾の旅行会社が企画しており、来た人たちが乗って帰る形となっている。</p> <p>来年春夏の定期チャーター便が計画されていると聞いており、調整を進めているところである。実現すればアウトバウンドにも利用できる可能性があり、地元の旅行会社や台湾の旅行会社が検討を進めている。</p>